

調平正

奈良で小学一年生の女兒が殺害された事件は、二〇〇四年十一月に起きた。こ

の事件を機に生まれた防犯システムがある。考えたのは、近くの町に住む住田典子さん◆長男が同学年だった住田さんは、容疑者が逮捕されるまでの一カ月半、不安で重苦しい日を過ごした。学校に入る不審者情報は、翌日にプリントで知るしかない。どうすれば情報をもっと早く、確実に保護者全員に伝えられるか。PTA役員として「安全・安心」のための連絡網整備は急務だった◆電話連絡は時間がかかるし、情報が正確に伝わりにくい。携帯電話を持っていない人にはメールが届かない。では、メールと電話、ファクスを組み合わせたシステムにすればどうか、勤務先のNTTデータに提案した◆彼女のアイデアは「子ども安全連絡網」として、〇六年七月から事業化された。保護者は複数の連絡先を登録しておく。母親が携帯メールを見られなかった時は、祖父母の固定電話に音声で連絡が入る。

祖父母が不在の場合は、父親の職場にファクスが届く◆個々の連絡先はNTT側で管理し、一世帯当たりの費用は標準的な利用で年間約八百円という。昨年度から導入している兵庫県立こやの里特別支援学校の紅山修校長は「保護者全員とつながっているという安心感がある」と話す◆利用する約十万人帯の二割は、メールを使わず、連絡先が電話やファクスになっている。「子どもの安全に関する情報だからこそメールを持たない保護者にも届けたかった」と住田さん。子を思う親の愛情が二割を切り捨てないビジネスモデルを生んだ。